

浅 田 賞



東京大学名誉教授 成蹊大学工学部教授 千葉大学客員教授
豊田 弘道君
計測・制御技術の進歩発展

君は昭和 26 年 3 月東京大学工学部卒業、直ちに日本鋼管株式会社へ入社、35 年 10 月東京大学工学部講師、48 年 5 月東京大学工学部教授、62 年 4 月成蹊大学工学部教授となり現在に至っている。

君は昭和 26 年より昭和 35 年まで日本鋼管株式会社にあつて鉄鋼プロセスにおける計測・制御に関して新しい技術の導入、品質管理の向上等の業務に従事しプロセスの自動化・合理化に寄与した。その後昭和 35 年に東京大学に招かれ、計測・制御に関する研究に従事してきた。特に日本における工業計測、温度計測技術、リモートセンシング技術の研究の中心的役割を果し、産業界に大きく影響を及ぼしてきた。

1. 温度計測、リモートセンシング技術の進歩への貢献

工業計測、温度計測、熱赤外放射計測、リモートセンシング及び画像処理分野の研究に力を注ぎ多数の顕著な業績を上げてきた。中でも温度パターン計測に関してはその重要性を指摘し、強力に研究を推進してきた。その考えは後のリモートセンシング研究に引き継がれて重要な役割を果たした。また差圧式気体流量計の圧力揺らぎと脈動誤差に関する綿密な研究に基づき多くの知見を得るという成果も上げた。

温度計測技術については日本学術振興会製鋼第 19 委員会第 2 分科会の幹事として産業界における計測技術の改善・標準化を中心に温度計測技術の進歩に大きく貢献した。リモートセンシング技術については、日本リモートセンシング学会副会長として研究についての幅広い提言を行い、日本のリモートセンシング技術の進歩に指導的役割を果たしてきた。さらに計測自動制御学会理事、評議員としてまた学術会議自動制御研究連絡委員会委員として学界の発展にも大いに貢献した。

2. 鉄鋼計測制御技術の発展への寄与

昭和 47 年より今日まで 14 年間にわたり、本協会共同研究会計測制御部会の学界代表委員として部会の研究活動に参加し、部会運営の活性化、メーカーとの交流の有り方等に多くの提言を行い、部会の方向づけに大きく寄与してきたと同時に部会での研究成果に対しても的確なアドバイスを行つた。また西山記念技術講座、白石記念講座等の講師として有益な講演を行うなど広く鉄鋼業における計測・制御技術の向上に大きい貢献をした。

浅 田 賞



(株)本田技術研究所 技術顧問

大 沢 恂 君

自動車工業における鉄鋼材料の開発および利用技術の確立

君は昭和 24 年名古屋大学工学部金属学科卒, 24 年津上製作所, 29 年三井精機工業を経て, 30 年本田技研工業(株)浜松製作所, 36 年(株)本田技術研究所勤務, 49 年取締役, 53 年次席研究員となり, 61 年同社技術顧問として現在に至っている。

君は, 昭和 24 年から 6 年間工具鋼およびゲージ鋼の経年変化に関する研究に従事した。昭和 30 年からは本田技研工業(株)および(株)本田技術研究所において通算 30 年余りの長期にわたり, 主として自動車用鉄鋼材料に関し広範囲な研究活動を展開し, 多くの業績を挙げるとともに国際的にも活躍し, 日本の自動車工業が今日の盛況を得た陰において多大の貢献をしてきた。その主な業績は次のとおりである。

- 1) 自動車用快削鋼の実用化研究
- 2) 自動車用材料の軽量化についての実用化研究
- 3) エンジンバルブ, 排ガス対策用ステンレス鋼・耐熱鋼の開発研究
- 4) 特殊用途用焼結鋼の開発研究 (例えば無鉛ガソリン用バルブシートなど)
- 5) 二・四輪レーシング用特殊鋼の開発研究 (例えばマルエージ鋼の応用など)
- 6) 自動車用表面処理, とくに浸炭および軟窒化などのための特殊鋼の開発研究

さらに, この間昭和 42 年以来足掛け 20 年間, 日本自動車工業会材料技術分科会会長として, 鉄鋼材料をはじめとするすべての自動車用材料問題に関し指導的役割を果たすとともに, 内外の材料技術者との交流の円滑化にも力を注いだ。また, 構造用鋼, ステンレス鋼, 自動車用鋼板および鉄鋼用語の JIS 作成並びに審議に関しても尽力した。

以上のように, 君は自動車工業における鉄鋼材料の開発および利用技術の確立に努力し, 鉄鋼業の進歩発展に顕著な貢献をした。